

[dōnk]

DONC どんく

発行

三重日仏協会

SOCIÉTÉ FRANCO-JAPONAISE DE MIE

事務局 津市東丸之内21-4 オーデンビル

3F / Siege : Oden Building 21-4

Higashi Marunouchi Tsu JAPON

N° 37 juillet 1996 SOCIÉTÉ FRANCO-JAPONAISE DE MIE

96年度総会 10周年記念事業など決める まず『ラヴェル四重奏団』コンサートの成功を

三重日仏協会1996年度総会は、7月14日津市の「プラザ洞津」で開かれ、創立10周年を迎える今年度の事業計画の概要などを決めました。特に10周年記念事業としては、①9月4日、四日市での『ラヴェル弦楽四重奏団演奏会』の成功のため取り組む。②今年度中にもう一つの記念事業を行うため、実行委員会を設けて企画・実施にあたる。との方針です。全会員のご協力をお願いします。

総会の記念講演には、35年来日本にあって仏教大辞典『法寶義林』の編纂に当たっておられるユベール・デュルト博士を迎え、〈フランスの日本学と仏教学〉のテーマで、有意義なお話をうかがいました。

引き続いて〈le 14 juillet〉のパーティーには、多くの新しい会員を含む約60名が参加、会員による音楽の演奏、クイズ、利き酒（ワイン）などを楽しみました。

三重日仏協会創立10周年記念事業(I)

ラヴェル弦楽四重奏団四日市演奏会

9月4日(水) 6:30 開演 四日市市文化会館第二ホール

入場券(前売り) 一般 2,500円 学生 1,500円

終演後「さよならパーティー」を予定

ラヴェル弦楽四重奏団〈Quatuor RAVEL〉は、数々の国際コンクール入賞歴をもつフランスのすぐれた室内楽団で、過去2回の来県で三重日仏協会とは親しい間柄。今回は「草津音楽祭」のため来日しますが、とくに三重県での演奏会を希望、四日市でのコンサートは全国で唯一のものです。翌9月5日には帰国の予定。

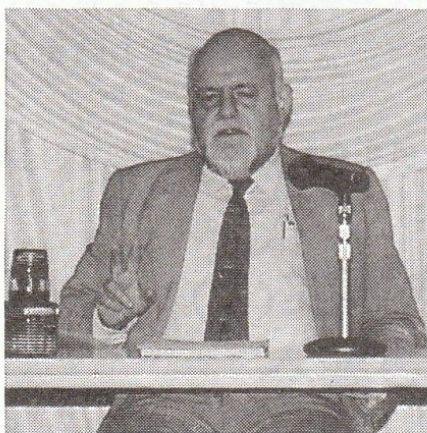
会員の皆様のご来聴と、お知り合いへのご吹聴をよろしくお願いします。

三重大学、パリ第6大学と協定

このほど三重大学はパリ第6大学Université Paris 6（ピエール・エ・マリー・キュリー大学 L'université Pierre et Marie Curie）と大学間協定を結び、5月武村泰男学長とジャン・クロード・ルグラン Jean-Claude LEGRAND 学長との間で調印を取り交わしました。両大学間で学術的教育的協力関係を拡充深化させることを目的としたもので、具体的には共同研究計画の推進、教官・学生等の交流、共同研究会等の開催その他が図られるということです。

★パリ第6大学

パリには国立大学として第1から第13までの独立した大学があります。ノートルダム寺院の近く。50万平米。理学、工学、医学分野を主とする。ほかに語学教育機関、情報工学研究所等。学生数38,000名、教官数2,700名、研究専門者1,300名、技官数900名ということで、キャンパスの広さは三重大学とおなじでも規模は数倍。三重大学のほかに東京大学、筑波大学と大学間協定を、京都大学工学部と学部間協定をむすんでいるとのこと。



総会で記念講演された ユベール・デュルト

Hubert DURT 教授

堂々たる体格、悠揚せまらぬ、しかし温和な語り口で、フランスにおける日本学と仏教学の流れや日仏文化交流の歴史などについて話されました。また聴衆

の質問にもていねいに答えられました。

文字通りライフワークとして取り組んでおられるのは、仏教大辞典『法寶義林』の編纂。法寶は仏法のこと、義は意味、林は集まりのこと、つまり辞典を指す。1925年〈A〉からこの仕事が始まり、いま先生は〈D〉の項の編集に当たっておられるとのこと。「この種のしごとは300年、400年かかるものも珍しくありません。これも完成まであと何百年かかるでしょうか。」と、さりげなく言われました。

兵営のラールス

竹田友三

私の室にぼろぼろの、白水社復刻版の『^{*1}ラールス・イリュストレ』がある。昭和19年刊のものを20年に岐阜で買ったもので定価は16円弱。その頃の私は各務原陸軍航空廠付きの陸軍軍曹で、多分月給は15円前後だったので1ヵ月の月給をはたいて買ったことになる。私はそれを何とか机や書類棚の隅に隠し持って——転属などのときには荷物になったが、復員まで背負って帰った。当時の私の普通の蔵書は終戦のどさくさの中で後輩にくれてやったり盗まれたり、古本屋に二束三文でうったりしてほとんどないのに、不思議にこのラールスだけは持っている。文丙超特級（特別進級）の^{*2}話を聞いた私には、われながら信じられない話である。

この話の証人になって貰えるかどうか一人の人がいる。奈良県で中等学校の英語の先生をしていた大植幸男さんという方である。22歳の軍曹の私の当番兵をつとめてくれた大阪外語仏文科出の方であった。その頃もう30代後半だったから90歳近いはずである。この人を当番に貰うように特に工作したうら話もある。休日など、他の下士官や兵が酒と女を求めて退去するのを見定めて、雪の兵営で人格高潔なるわれわれは「ラールス」をたのしんだのである。しかしルソーや、さらにスピノザにも10行以上書いているこの『ラールス』は、ロマン・ロランには^{*3}2行しか書いていない。「romancier français né à Clamecy en 1868, auteur de Jean-Christophe」のみ。二人がど

んな話をして、兵営に暗い一隅でいたのか、どんなところへ『ラ
ルース』をかくして寝たのか、もうすっかり忘れたが、歴史的
現実には、大日本帝国全体が雪崩れかけていたわけだ。1年後、ロ
マン・ロランは私の中でふくらむ。その話し相手は大植1等兵で
なく一人の若い女教師にかわっている。

『ラルース』はこわれつつ、彼女も古び果てて目前に存在する。
大植さんお元気だろうか。

(編集部注)

- * 1. 〈LAROUSSE ILLUSTRÉ〉. フランスの権威ある絵(写真)
入り百科事典
- * 2. 〈どんく〉35号掲載の筆者の随想『文丙二年半』参照。こ
れは旧制高校時代のエピソードだったが、今回はそれに続
く軍隊時代。
- * 3. 井土所蔵の同辞典1956年版(ロラン没後)では彼に7行が
さかれている。因みに引用すると；

Romain ROLLAND écrivain français. né à Clamecy (1886-1994);
défenseur du pacifisme internationaliste, il est connu par ses
dramas (Danton, le 14 juillet), mais plus encore par les études
et les romans qu'il a consacrés aux artistes et particulièrement
aux musiciens (Beethoven): son chef-d'oeuvre est Jean-Christophe.
(Prix Nobel 1906)

しかし、同時代の作家ジッド、ヴァレリ、クローデル、ペ
ギー等が写真入りなのに、ロランの項は写真がない。

『会員の随想』募集

日仏協会の機関紙にふさわしいテーマなら何でもけっこう
です。800字～1,500字でいど。順次掲載させていただきます。
す。

また、記事になるような情報もお寄せ下さい(編集部)

ケルン夫人 プロバンスの風のように吹き抜ける

去る5月、武田治美さん夫妻の招きで来日し、三重日仏協会のフランス語集中講座〈南仏プロバンス夢の旅〉を担当して下さったジャクリーヌ・ケルン夫人は、その明るく魅力的な人柄と精力的な活躍で、約60人の受講生の心をとりにこにしました。夫人は津市と四日市市での計5講座（各週2時間・4回）で、独自に用意されたプロバンス地方を紹介する教材によってフランス語を指導されたほか、同地方の家庭料理の実習を1回、さらにお別れ会として、「プロバンス風パーティー」を主宰され、にんにくの効いたソースで魚や野菜を食べる「アイオリ料理」を全員で作りと、地酒のロゼワインを楽しみました。ひと月余りの滞在でしたが、まさにさわやかな南仏の風が吹き抜けた感じ。またこの講座の成功によって、本協会にまた新しい人の輪が広がっています。



写真 プロバンス風パーティーでのケルン夫人

予 告

8/24(土) フランス映画『世界で一番好きな人』〈dit - moi oui...〉

監督・製作：アレクサンドル・アルカディ

出演：ジャン＝ユグ・アングラード ジュリア・マラヴァル

マリー・ラフォレ アヌーク・エメ

津市 お城ホール 前売券 1,300円 主催：津シネマフレンズ

Manifestations Culturelles フランス大使館『文化カレンダー』より

- ロートレック展 三重県立美術館 6/22～7/28
- 『あこがれの船旅』展 サントリーミュージアム天保山 7/20～9/29
- 『ヴィクトル・ユゴーの世界』展 大阪・近鉄アート館 8/30～9/11
- 『フランス絹織物—王朝芸術の精華』リヨン織物美術館コレクション展 大阪・近鉄アート館 10/4～16

事務局から

★フランス大使館広報部発行の『フランス便り』（月刊、B5サイズ、30ページ前後、日本語）を、希望者に配布するお世話をいたします。本体は無料ですが、送料（大使館⇒事務局⇒読者）の負担が必要です。お一人各月250円とあて先を明記して事務局まで申し込んで下さい。

同誌7月号の内容例

出来事「シラク大統領就任から1年」、エフェメリード、文化「フランス学士院」、社会「田舎への回帰」、特集「オートクチュール」など。

★今年度会費を同封の振込用紙でよろしくお願ひします。10周年記念事業をはじめ本会の活動の大部分が会費収入に依存しております。ゆめお忘れなく！